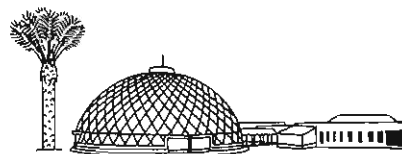


かんちけん倶楽部

TOTTORI KANCHIKENCLUB



○会員の皆さまへ (国立大学法人鳥取大学乾燥地研究センター長 稲永 忍)

昨年4月、全ての国立大学が国立大学法人化され、鳥取大学も正式には「国立大学法人鳥取大学」となりました。法人化でどう変わったのでしょうか。以前の国立大学は文部科学省の出先機関の一つで、いわゆる役所、教職員も公務員でした。極端なことをいえば、学生が一人もいなくても、国の費用により国立大学という組織は温存されたのです。これに対して国立大学法人は、役所ではなく、教職員も公務員ではありません。国の委託を受けて、高等教育、学術研究および社会貢献を担う組織のことを指します。運営経費は、基本的には、学生の授業料等と、その不足



分である国からの運営交付金(毎年1%削減)に依存します。この他、他大学等との競争に勝てば、文部科学省の特別教育研究経費や科学研究補助金、民間等の競争的資金などが得られ、運営経費に充当できます。経費面で以前と大きく変わった点は、授業料等が国ではなく、私立大学と同じように各国立大学法人の直接収入となったことです。したがって、入学者数の減少は経営を直に圧迫します。これは大学の存在意義の希薄化に繋がり、他の収入も暫減し、ひいては教育研究内容等の縮減や教職員数の削減を余儀なくされます。そうならないためには、受験生は無論のこと、地元や民間企業、国などにとって、今以上に魅力的な鳥取大学となる必要があります。乾燥研究センターとて同じです。

乾燥地研究センターの人件費をのぞく年間運営費は、概ね運営交付金が約1億円、文部科学省21世紀COEプログラム経費等の競争的資金が約1.6億円です。この先2年間は上記の競争的資金の交付が確約されていますので、現状の世界トップ水準の研究教育活動等はほぼ維持できると思います。しかし、その後については何の保証もありません。そこで現在、若手教員を中心に、再度COEプログラムのような大型研究費が得られるよう全力を挙げて取り組んでいます。また、皆様にとって乾燥地研究センターをより魅力的なものとするため、現在実施中の一般公開(年2回)、小学生向け体験学習(君もなろう砂漠博士、年1回)、土日・祝祭日ミニ砂漠博物館公開、平日一般公開、公開セミナー(年20回以上)等(以上には年間3千人以上の方々に参加されます。)を一層充実させます。さらに、皆様との結びつきが今以上に深められる企画、例えば、乾燥地研究センター、浦富海岸、砂丘、花回廊等を有機的に連携させた理科体験学習ツアー、乾燥地研究センターが海外研究教育基地を置く中国黄土高原等への乾燥地・砂漠体験学習ツアーなどを構想しています。とっとり乾地研倶楽部会員の皆様には、引き続き、力強いご支援をお願い致します。

「とっとり乾地研倶楽部」は、世界の乾燥地農業、砂漠化防止に貢献する鳥取大学乾燥地研究センターの活動を支援しています。

2004年度乾燥地研究センターの活動報告

〈乾燥地研究センター一般公開〉

乾燥地研究センターでは、センターでの活動を広く一般の皆様理解していただくために一般公開を実施しました。

◇平成16年8月7日

乾燥地についての講演「塩の大地に生きる」、アリドーム施設の見学、大好評のメロン販売、乾地研クイズ、アリドームのライトアップ、研究室紹介、ミニコンサートなどを実施



研究室紹介



ドームに作った砂漠

◇平成16年10月9日

乾燥地についての講演「モンゴル大草原に生きる野生動物」、アリドーム施設の見学、大好評のメロン販売、写真展(乾燥地研究センターの研究活動紹介)を実施。

多くの方にご来場いただき、乾燥地研究センターに触れ、体験することによって、楽しんでいただきました。乾燥地研究センターがどういふものかちょっと理解していただけと思います。

〈きみもなろう！砂漠博士〉

夏に、「きみもなろう！砂漠博士」を実施しました。小学5・6年生対象のこの企画の今年のテーマは水の蒸発。みんなで一緒に実験をして、身近な水が実は人間が生きていく上でいろいろと役立っていることを学びました。

砂

漠

豆

知

識

～砂ってなんだろう？～

小さい頃、学校の校庭や公園の砂場、海岸などで砂遊びをした人は多いでしょう。ままごとのお団子や砂のお城を作ったりと、ずいぶんと楽しんだものでした。砂は水を含まないと固まりにくいし、さわった感触もザラザラしていて、粘土と比べると大きく性質が異なりますね。これは、砂の粒の大きさや粒を作っている物質の違いによるのです。

砂とは、粒の大きさが2mmから16分の1mmの大きさの粒のことを言います。2mm以上の粒はレキ、16分の1mm以下のものはシルトとか粘土と言います。春先に車を汚す黄砂もシルトや粘土の一種です。鳥取砂丘では海岸から内陸のほうに向かって歩くと、この粒の大きさがだんだんと小さくなっていくのを観察することができます。ルーペを持って砂丘に出かけるのもいいかもしれませんね。

乾地研のひと

〈講師 縄田 浩志〉

砂浜が広がる浪打ち際に、水色のラクダのシルエットがゆらゆらと揺れている。またがったラクダの背の上から、青い紅海と白い沙漠を眺めた時の光景である。水しぶきをあげバシャバシャと音をたてながら、男とラクダはサンゴ礁原へくりだした。細長い礁は5メートル程の幅しかなく、そこをはずれることはできない。沖合へ進むにつれて、海水はラクダのこぶのすぐ下にまで浸かってくる。しかし、ラクダは迫りくる海面をも恐れず、1時間ほどかけてしっかりした足取りで進んでいく。めざすその先には、マングローブ群落に囲まれた隆起サンゴ礁島が横たわって



いた。これは北東アフリカ、スーダンの紅海沿岸域で、牧畜をなりわいとするベジャ族と暮らしていたときの経験です。

人びとは、千年以上にわたり海と接する沙漠で生き抜いてきました。その知恵とは何なのでしょう？そこには、乾燥地域という苛酷で不安定な自然と折り合いをつけながら長く住み続けていく秘策が隠されているかもしれません。彼らから学ぶことにより、自分のなかに膨大な問題意識が沸きあがってきました。現在、それらを研究として世に問おうと格闘中です。牧畜システム、在来知識、資源管理などに関する文化人類学的な分析をもとに、生物資源の持続的な利用や住民参加型の地域開発の研究を行っています。

〈講師（研究機関研究員） 齊藤 忠臣〉

昨年春に大学院を修了し、ここ乾燥地研究センターで研究者としての第一歩を踏み出しました。学生の時から乾燥地に興味を持ち、乾燥地の研究をしていた私にとって、この乾燥地研究センターで働けることは大変嬉しい事です。ここには日本だけでなく、世界中の研究者が集まるため、日々刺激を受けることができます。

私は土の表面や地中における水の移動について研究をしています。乾燥地では植物が乏しく土がやせているため、土の透水性が悪いという特徴があります。さらに、雨は普段めったに降りませんが、降るときには一度に沢山降ることが多いため、雨が地面に浸透しきれず、しばしば洪水となって流れてしまいます。乾燥地で洪水とは皮肉なもので、貴重な水資源が植物に利用されずに流れ去っているわけです。この流出水をいかに土壤に浸透させるかが、私の研究テーマの一つです。また、乾燥地では水が盛んに蒸発するため、一度土の中に入った水分の蒸発を防ぐ研究も行っています。こういった研究が実を結び、乾燥地での砂漠化や環境問題の解決に役立つよう、これからも頑張っていきたいと思えます。



～鳥取砂丘は砂漠？～

「鳥取砂丘は砂漠ですか？」と小学生に聞かれたことがあります。さて、この答えはイエスでしょうか、ノーでしょうか？正解はノー、鳥取砂丘は砂漠ではありません。そもそも日本に砂漠は存在しないのです。しかし、砂漠も砂丘も砂地のイメージだし、植物もほとんど生えていません。では、その違いは何でしょうか。

一番の違いは、雨の量です。砂漠では殆ど雨が降らず、そのために植物が育ちません。一方鳥取は雨の多いところ。梅雨の時期には毎日のように雨が降り、冬には雪が積もります。砂丘に植物があまり生えていないのは、風のせい。風が吹くと、砂が動きます。すると、雑草でさえもなかなか根を張ることができないのです。砂丘に植物が生えないのは、砂の動きがあるからです。

外国人研究者からひとこと

今回は、外国人客員教授のジョンさんとレVENTさんにお聞きしました。

John GORHAM (ジョン・ゴースム)

Q1: 出身地はどこですか？

イギリス・北ウェールズにあるバンゴールという小さな街から来ました。大聖堂があるので市(city)と呼ばれていますが、鳥取よりもっと小さな街です。私はALRC(乾燥地研究センター)と非常によく似たウェールズ大学バンゴール校乾燥地研究センターで働いています。アングレースー島にあるランヴァイル・プルグウィンギル・コゲリフウィルンドロブル・ランティシリオゴゴゴホと呼ばれる、バンゴールから6km程の村に住んでいます。田舎は鳥取県ととてもよく似ていて、丘、岩の多い海岸や砂丘があります。



Q2: 乾地研でどんな研究をされているんですか？

耐塩性の生理学および遺伝学について研究しています。

Q3: 鳥取県、鳥取砂丘についてどう思われますか？

鳥取に来てまだ間もないですが、ここは大変美しく、ウェールズを思い出します。春が楽しみです。砂丘はアフリカのナミブ砂漠のようですね。

Q4: 鳥取の人はどうですか？

鳥取の人は大変親しみやすく、助けてくれます。

Q5: お国に帰られたら何をされますか？

ウェールズに戻ったら、教える仕事をするようになるでしょうが、出来れば作物の塩分と分子マーカーの研究を続けたいと思っています。また、自宅で次の冬のための準備として、庭の手入れをするでしょうね。

Levent SAYLAN (レVENT・シャイラン)

Q1: 出身地はどこですか？

トルコ出身です。トルコは2大陸にまたがる所に位置し、ヨーロッパとアジア が出会う場所でもあります。現在(ヨーロッパに近い)イスタンブールに住み、イスタンブール工科大学に助教授として勤務しています。

Q2: 乾地研でどんな研究をされているんですか？

農業気象に関心があり、現在「日本の生態系における熱、水、炭酸ガスフラックスの研究」を行っています。

Q3: 鳥取県、鳥取砂丘についてどう思われますか？

鳥取、日本の両方とも大変興味深く、素晴らしいです。また鳥取砂丘も大変美しく、興味深い場所だと思います。

Q4: 鳥取の人はどうですか？

現在のところ、私が知る限りの日本人は大変親切で、助けとなってくれ、優しいです。ですから鳥取(日本)に居られてとても嬉しく思っています。

Q5: お国に帰られたら何をされますか？

帰国後も日本人研究者とともに研究を続ける予定です。そして、友人たちに鳥取、日本へ行ってみるよう勧めようと思っています。



【とっとり乾地研倶楽部の設立趣旨】

砂漠化防止や乾燥地農業について世界的に貢献している鳥取大学乾燥地研究センターは、世界の乾燥地研究ネットワークの中核として学術研究、人材育成に大きな役割を果たしており、地域にとっても世界に誇るべき知的財産です。

そこで、鳥取大学乾燥地研究センターの活動を地域で支え、その研究活動と研究成果を広く情報発信することを通じてこの地域の発展を図るために「とっとり乾地研倶楽部」を設立しました。

発行：とっとり乾地研倶楽部事務局

鳥取商工会議所

鳥取県総務部教育・学術振興課

鳥取市本町3丁目102番地 TEL(0857)26-6666

鳥取市東町1丁目220番地 TEL(0857)26-7814

FAX(0857)22-6939

FAX(0857)26-8110